

大事なのってさ、ピアノを弾いて楽しい気持ちになる事じゃない？

～ミシェル流・ココロ潤うピアノ教室～



25歳の時、私はピアノ教室に通うのを止めた。発表会を目前に控え、すらすらと弾けない私に対し、先生は、できていない部分ばかりを指摘し、弾けない私を責めた。先生の言い分はこうだ。「私はきちんと指導した。あなたが練習しないからいけないのだ」。まったくその通りだ。先生を責めるつもりもないし、責めた記憶も、ない。私は自分を責め、弾けない自分を呪い、そしてピアノが大嫌いになり、発表会の舞台はキャンセルした。それから10年、まったくピアノが触れなくなかった。最近になってようやく、ピアノと向き合えるようになり、音楽仲間がではじめると、10年前のトラウマを解消してくれるピアニストでかつ、ピアノ教師に出逢った。ミシェルだ。

ミシエルの教育方針を聞いていると、かつて私を責めた教師とはまるで正反対だった。その方針は「褒めて伸ばす」。彼女の「褒め」に対する研究はハンパない。例えば、才能を褒めると、生徒は褒められたいが為に無難なものにししか手を出さなくなるが、努力を褒めると、困難にもどんどんチャレンジするように成長する、らしい。生徒さんのキャラクターに合わせて褒め方も変えるそうだ。そして、決して生徒を責めない。生徒が弾けない時には、自分の指導方法を徹底的に見直す。自分に厳しいミシエルは「常に試行錯誤の繰り返しだ」と大変そうだが、ストイックなその姿に私は「プロ根性」を見た。

ミシエルがピアノ教師として掲げているミッションは、「教室に来たら、みんなが笑顔になれる」事。ピアノの鍵盤に指を乗せる。美しい音がする。そんな簡単な事でこの世の豊かさにフォーカスできるという事実を知って欲しいそうだ。

音を楽しむのに難しい曲である必要はない、とミシエルは言う。「私はね、簡単な曲でも、綺麗な音色を味わってほしいなって思うの」。力の入れ方、姿勢など、テクニックによって、ピアノはまったく異なる音を出す。ミシエルのピアノ演奏を聴いた事のある人ならわかると思うが、彼女の出す音は本当に美しい。納得のいく音を生み出すための努力の楽しさと、それが可能になった時の魂をゆさぶる達成感。芸術はこだわりがあるからこそ面白く、それを体験させてくれるミシエル。偉大だ。

例えば弾きたい曲が思い浮かばない生徒さんも中にはいる。そんな時は連弾を勧めるそうだ。楽譜に付いた連弾のCDをかけて練習をすると、難しいパートが素晴らしい演奏で録音してあり、簡単なパートを弾いていても、なんだかすごい曲を弾いたような錯覚を起こす。そして生徒さん達は目を輝かせていくそうだ。教室でそんな生徒さんと連弾するのがミシエルも楽しくて仕方がないと言う。この教室には、大手ピアノ教室のような「ピアノ嫌い」の子は一人もいない。教室の中に一歩、足を踏み入れれば、日常の悶々とした思いも、ミシエル先生のわくわくした波動と、ミシエルの弾く美しいピアノの音色で浄化される。

レッスンは月12,000円。大人は月に2回（1レッスン45分）、小中高・幼児は月に3回（小中高：1レッスン40分、幼児：1レッスン30分）。必ず月に一度、「ピアノのない週」を作る。その心は「人生には、ピアノ以外にも、素晴らしい事がたくさんあるでしょ？そういうのもちゃんと見てほしいのね。色んな経験した方が、ピアノの演奏に味が出るし」。ピアノを通じて人生をプロデュースする教室。こんな贅沢な教室を私は他に知らない。

piano room ～放課後の音楽室～（岡崎市） pianoroom333@gmail.com（ミシエル・小林美紀）

無料体験レッスン受付中。 <http://ameblo.jp/pianoroom333/>